

# Co だより

## the FIRST DAYS OF SCHOOL —How to be an effective teacher

### CHAPTER 1 成果を上げる教師とは

#### I. どうして学級開きが大切なのか？

クラスの1年がうまくいくかどうかは、学級開きにかかっている。子どもたちは、何を行うかが予測できる、安心できる学びの場を求めている。学級経営が上手になされていれば、子どもたちは怒鳴られることもなく、学習に集中できる。一貫性が生まれるよう、学級経営をしていくことが大切なのである。パワーポイントを用いて学級経営計画のプレゼンテーションをするなどして、①教師の役割、②クラスの手順の確立、③仕事としての教師の責任の3つをきちんと把握する。教師が、自分の役割をわかっていると、子どもたちは安心するものなのである。

#### II. 成果を上げる教師とは？

1. 指導とは、あなたが何かをつぎ込むかではなく、「子どもたちから何が返ってくるか」である。
2. 私たちみんなが、学習者であると同時に教師でもある。(本当に実力のある教師は、子どもと共に学ぶ)
3. 教師が子どもたち全員に対して、前向きな期待をもつ。(子どもを信じ、その学ぶ力を信頼する)
4. 学級経営のスキルを身に付けている。(秩序ある環境を整うかどうかは、教師が学級経営のスキルを身に付けたかどうかにかかっている)
5. 授業を極める。
  - ① 子どもが目標や指導基準まで学べるように授業を計画する。
  - ② 子どもが目標を達成できるよう、指導技術を身に付ける。
  - ③ 子どもが習熟できるように学習状況を確認し、必要に応じて軌道修正する。



#### III. 新任教師として順調なスタートを切る

学校生活において、問題があるように思える子どもも、地元のファーストフード店のアルバイトではうまく仕事をこなしているのを不思議に思ったことはないだろうか。マクドナルドやドミノピザには、研修プログラムがあり、実際に接客を始める前にトレーニングを受ける。しかし、学校現場においては、新任教師であっても、他の教師と同じであり、初日から完璧に仕事をこなし、年々成長していくことが求められている。教育は「製品」ではなく、終わりのないプロセスであるので、常に学び続け、蓄積された叡智から、その時々合う手法を選ぶことが教師に必要とされる能力でもある。お手本となる同僚を探し、同僚と協力し、研究会に参加し、授業観察、授業研究、本や雑誌、DVD、インターネットなどを活用し、学び続けることが大切である。

#### IV. 子どもがどこまで達成できるかは、教師の影響による

成果を上げ、子どもを変える教師は、斬新な計画を立て、学級経営が抜群にうまく、批判的思考にたけ、問題を解決する能力も優れている。成果の上げられない教師は、「やり過ぎず」タイプである。

#### V. 成果を上げる教師は、できる教師が取り入れている研究に基づいた実績のあるやり方を実践する

残念なことに、多くの教師は、自分が教わったとおりに教えるということを行っている。成果を上げら

れない教師は、「子どもを静かにさせる」ための仕掛けやゲーム、アクティビティを探すことに熱心である。成果を上げる教師は、「子どもたちの学びに役立つ」ような研究を常に意識して、その研究に熱心である。



## CHAPTER2 成果を上げる教師は、子どもに対して前向きな期待をもち続ける

### I. 前向きな期待

保護者や教師が、子どもたちの発達の段階に合った形で「期待」を伝えることは、その通りの結果を生み出す力をもつ。実験でも教師全員にあなたは特別に選ばれた優秀な教師であると密かに伝え、受けもつ子どもの20%が特別な子どもたちだと伝えたところ、8か月後のテストで無作為で選ばれていたはずの20%の子どもの成績が著しく上がった。つまり、大切なのは「教師」ということになる。

### II. 入学式を祝う

子どもの生活の中心は、学校と友達である。人生の中でとても楽しい時期でもある。学校が前向きな気持ちで生まれれば、子どもたち一人ひとりの成功の確率が高まる。「学校教育において最も大切な日は、卒業式ではなく、入学式の日だ」ともいわれるほど、入学式は学校、家庭、地域が一体となって全員が関わるのが理想的である。学校とは、単なる場所ではなく、「概念」である。脅かされたり危害を加えられたりする心配がなく、愛情あふれ、清潔で秩序の整った環境で過ごし、成長する機会なのである。

### III. 教師の身だしなみ

教師は身だしなみも重要である。「あなたは、見かけどおりの扱いを受ける。第一印象に、二度目のチャンスはない。」と企業の面接担当者は言う。企業の面接官は判断を「20秒」で行う。営業担当者は、「最初の7秒間」が勝負であると心得ている。同じように子どもが最初に目にするのは教師の着ている服であり、笑顔だということがわかっている。

### IV. 子どもに学ぶ意欲を

人を誘うためには、まず信頼関係を築くことが大切である。もちろん子どもだけでなく、保護者ともよい関係を築くことが大切だ。

子どもたちは教師の知識の深さよりも、信頼の深さに影響される。目指すのは、子どもを変えることだが、教師の考えに近づけるのではなく、教師の感じ方に近づいてもらえるようにすることである。子どもは言葉を拒むことはできても、受け入れてくれる人の態度を拒むことはできないのである。人の人生に影響を与える重要な人物には、人を誘う言葉がある。「あなたは、私にとって大切な人です。」というメッセージが毎日、子どもたちや同僚に伝わるようにする。

#### 誘う教育の4つの段階

1. 意識的に遠ざける教師……「学校に来たって意味ないだろう」（意地が悪い教師というのモいて、わざと子どもを傷つけ、挫折させる）
2. 無意識に遠ざける教師……「あの子たちには、そもそも上達する能力がない」（自分が否定的であることに気付いていない教師）
3. 無意識に誘う教師……「行け！！みんな頑張れ！」（誠実で仕事熱心であるが、子どもたちの成長の余地を見過ごしがち）
4. 意識的に誘う教師……「これやったら、みんなびっくりすると思うよ」（はっきりと目的をもって子どもたちを受け入れている）

## V. どうしたら、子どもはお行儀良くなるのか

成果を上げる教師は、製品以上のもの、「サービス」も提供する。愛情深く、思いやりがある。

1. 子どもに声をかけるときは、必ず名前を呼ぶ。子どもの名前は正しく発音する。
2. たとえ、子どもに対してであっても「～してもらえ/お願いします」(アイメッセージ)
3. 「ありがとう」と名前を組み合わせる。「本当に助かったよ。ありがとう〇〇さん」
4. 微笑む(笑顔は万国共通の言葉で、理解、平和、調和を表す)



## CHAPTER3 学級経営

### I. 教室の準備をする

教室全体の準備→学習の場を整える→子どもたちが使う物の置く場所を整える→掲示スペースを整える→本棚を準備する→教師の居場所を整える→教材を準備する→教師自身の準備

### II. 子どもに自己紹介をする

教師の思いとは関係なく、評判は先行するので、良い評判を獲得する。好まれるのは、成功しそうな人である。「あなたの名前」「何を期待しているか」を語る。学級開きですべきことを、書いてまとめておく。子どもたちは、教師が自分たちに何を期待しているのかをわかっているとよく学ぶ。

### III. 学級開きの前に座席を決めている。(座席表を作る)

最初の指示は、座る場所についてである。座席が指定してあり、最初の課題は机の上に置いてあるか、全員が見える場所に貼り出されている。教師が座席を決めた方が成長できるクラスになる。

### IV. 子どもを変える授業の始め方

1. 子どもが教室に入る前に、課題を準備して貼り出しておく。出席をとることでは始めない。貴重な学びの時間が無駄になる。子どもが作業に取り掛かってから欠席人数を確認する。
2. 事前に教務手帳に何を記録すべきか考えておく。「何をどれくらい達成しているか」を記録することは、子どもたちを評価し、各々が最大限に学ぶためにとても大切なこと

### V. 秩序の保ち方

1. イニシアチブをとる。(問題の80%は教師に原因がある。手順と決まったやり方がないことが原因)
2. 秩序を保つ計画には三つの要素がある。

- ① ルール (例: 全般的ルールはベテラン教師、具体的ルールはキャリアの短い教師が立てることが多い。わかりやすいルールは教室に「一貫性」をもたらす。)
- ② 結果 (例: 人が選んだ行動に伴うもの。罰ではない。VIを参照。)
- ③ 褒美 (例: 金曜日の30分の学習のための自由時間。空き瓶にビー玉を入れて貯めていく等。)

### 3. 秩序を保つ計画には、結果がついてくる。

ルールには結果がつきものである。多くの人(大人も子どもも)は、見つかりさえしなければ、自分は何も悪いことはしていないという認識でいる。「ルールを破ると必ずしも罰を受けるわけではない」のである。すなわち、「ルールを破ってもなんのお咎めもなし」ということが多い。罰ではなく、意識的にルールを破ることを選んだのだから、その結果として起こることは受け入れなければならないと考えさせるようにする。「結果」は、人が選んだ行動に伴うものである。だから問題は、「選択」である。「自分自身が選択をしている」ことに気付いていない人は、被害者意識をもち、自分の行動の結果を人のせいにするのである。子どもたちには、ルールの話以上に、「結果」について、より時

間をとって説明し、選択や行動が、結果につながることを理解させることが必要である。成功している人は、「人生は結果の連続である」とポジティブに考えている。

子どもと教師が協力して秩序を保つ計画を立てる場合、一般的なのは、子どもに何らかの文書を提出してもらいやり方である。「行動計画」のコピーを子どもに見せ、3つの質問に対して答えさせる。

Q 1 何が問題なのか？……破ったルール of 指摘。

Q 2 何が原因で問題が起こるのか？……問題の原因をすべて書き出させる。

Q 3 問題を解決するために、どういう計画を立てるか？……計画に対する「責任」が生じる。自ら問題を正すための計画を立てる。

こうして、「行動計画」を立てることで①問題解決、②責任感、③自己鍛錬も身に付く。「行動計画」に署名することで責任を明確にする。問題が正されるまで、何回でも「行動計画」の見直しをさせ、「やり抜く」ようにさせる。

## VI. クラス内の手順を守ることを教える

学級経営において一番問題なのはしつけでなく、手順や決まったやり方がないことである。しつけをしていると、学びは捗らない。しつけにはルールがあるが、学級経営にあるのは手順である。しつけと手順の違いは、

1. しつけは、**態度**に対して行う。
2. **手順**とは、何がどう**実施**されるかである。
3. しつけにはペナルティーや褒美がある。
4. **手順**には、ペナルティーや褒美がない。



ルールは破られるものだが、手順はそうではない。手順は、実施されるもので、学ぶべきステップである。物事がスムーズに進む教室は、教師が手順を子どもたちにうまく教えた成果である。こうしたクラスを作る責任は教師にある。

### 手順を教える3つのステップ

1. 説明する：手順を伝え、説明し、手本を示し、実演して見せる。
2. 練習する：あなたの指示のもと、手順を練習する。
3. 強化する：再度教え、練習し、教室の手順が子どもの習慣として定着するまで強化する。



## CHAPTER 4 授業を極める

### I. 授業の目標は、学びの志

1. 目標があると、子どもたちは何を成し遂げればよいのかわかる。
2. 目標があると、教師は何を教えればよいのかわかる。

目標は、「実践されるべき**行動を表す動詞**」で始まるようにする。「行動の言葉」「考える言葉」としての動詞は、ブルームの目標分類学として知られている。

### II. 改訂版ブルーム分類学

1999年、かつてブルームの生徒であったローリン・アンダーソン博士とその同僚達は、指導と学習に影響を与える、より多くの要素を考慮した、ブルーム分類学の改訂版を出版した。

この改訂版分類学のねらいは、元来の分類学の問題点を修正することであり、1956年版とは異なり、改訂版では、思考の内容である「何を知っているか」と、問題解決で使用するプロセスである「いかにし



て知っているか」を区別した。「知識面」とは、「何を知っているか」である。これには、「事実」、「概念」、「処理」、「メタ認知」という4つの区分がある。「事実」的知識は、単語の定義やある事柄についての詳細な知識のような、断片的な情報を指す。「概念」的知識は、分類や区分といった系統的な情報を指す。「処理」的知識には、アルゴリズム、ヒューリスティックスと呼ばれる経験則、手法、方法論などがあり、また、これらの処理方法をいつ使うか、という知識などが含まれる。「メタ認知」的知識には、これらの過程をいかに効果的に操作するかという情報や思考プロセスについての知識を指す。

改訂版ブルーム分類学における「認知プロセス面」には、原版同様に6つのスキルがある。単純なものから複雑なものへ、「記憶」、「理解」、「応用」、「分析」、「評価」、「創造」というスキルで構成されている。「タキソノミーテーブル」という「表」の形で示された。

## 教育目標の分類学 (ブルーム・タキソノミー)

**ブルームの教育目標分類学**  
【認知的領域】  
(Bloom, B.S.他)

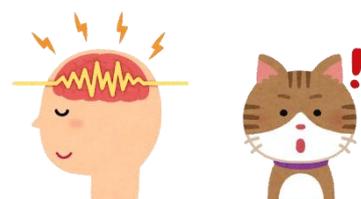
- ① **知識** 情報や概念を想起する
- ② **理解** 伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
- ③ **応用** 情報や概念を特定の具体的な状況で使う
- ④ **分析** 情報や概念を書く部分に分解し、相互の関係を明らかにする
- ⑤ **総合** 様々な概念を組み合わせて新たなものを形作る
- ⑥ **評価** 素材や方法の価値を目的に照らして判断する

**改訂版ブルーム分類学 (Anderson, L.W.他)**

| ↓<br>知識次元 | → 認知課程の次元 |         |         |         |         |         |
|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
|           | ①<br>記憶   | ②<br>理解 | ③<br>応用 | ④<br>分析 | ⑤<br>評価 | ⑥<br>創造 |
| 事実的認識     |           |         |         |         |         |         |
| 概念的知識     |           |         |         |         |         |         |
| 遂行的知識     |           |         |         |         |         |         |
| メタ認知的知識   |           |         |         |         |         |         |

(上図は、文部科学省 教育課程企画特別部会 資料2より抜粋→文部科学省が学習指導要領改訂に当たってブルーム・タキソノミーを意識したことがわかる。)

この分類学によると、知識の各レベルは認知プロセスの各段階において互いに対応するため、生徒は事実的知識または处理的知識を思い起こし、概念的知識またはメタ認知的知識を理解し、そしてメタ認知的知識または事実的知識を分析する。「有意義な学習からは、問題解決を成し遂げるために必要とする知識と認知プロセスを得ることができる」と、アンダーソン博士とその同僚達は述べている。以下の図表では、各スキルにおける「認知プロセス面」と「知識面」の例を挙げた。



## 効果的なプロジェクトの設計：思考スキルの構造

### ブルーム分類学：認知プロセス面

| 認知プロセス            | 例   |
|-------------------|---|
| 記憶-記憶から正しい情報を呼び出す |   |
| 認識                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多種多様な両生類の図解からカエルを認識する。</li> <li>・ 自宅周辺で二等辺三角形を見つける。</li> <li>・ ○×式問題や選択問題に答える。</li> </ul>  |
| 想起                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 19世紀のイギリス人女性作家の名前を3つ挙げる。</li> <li>・ 掛け算九九を書き出す。</li> <li>・ 四塩化炭素の化学式を想起する。</li> </ul>  |
| 理解-教材や経験から意味をとらえる |   |
| 解釈                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章問題を代数方程式に書き換える。</li> <li>・ 消化器系を図にする。</li> <li>・ リンカーンの第2回大統領就任演説をわかりやすく言い換える。</li> </ul>  |
| 例証                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平行四辺形を描く。</li> <li>・ 文章における「意識の流れ」の手法の例を挙げる。</li> <li>・ 地域に生息する哺乳類の名前を挙げる。</li> </ul>  |
| 分類                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数字を偶数と奇数に分ける。</li> <li>・ 近代アフリカ諸国に見られる政治体制をリストに挙げる。</li> <li>・ 天然動物を生物学の種類別に分類する。</li> </ul>                                       |
| 要約                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の一節にタイトルをつける。</li> <li>・ ウェブ上で奨励されている死刑制度に関する要点をリストにまとめる。</li> </ul>   |
| 推測                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2人の登場人物が出てくる文章の一節や会話分を読み、その2人の過去の関係に関して何らかの結論を考え出す。</li> <li>・ 文脈から、知らない用語の意味を理解する。</li> <li>・ 一連の数字を見て、次に来る数字を予測する。</li> </ul>    |
| 比較                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心臓がいかにポンプのような役割をするかを説明する。</li> <li>・ 西を目指した開拓者を思い起こさせるような自身の経験について書く。</li> <li>・ チャールズ・ディケンズの著作2点における相似点・相違点をベン図を使って示す。</li> </ul> |
| 説明                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気圧の変化がいかに天候を左右するか、図で表す。</li> <li>・ フランス革命が起こったのがなぜその時期だったのか、どのようにして起こったのかを詳しく述べて説明する。</li> <li>・ 金利がいかに経済に影響を及ぼすかを説明する。</li> </ul> |
| 応用-手段の利用          |   |
| 実施                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二桁の数列を足す。 文章を外国語で音読する。</li> <li>・ 野球ボールを投げる</li> </ul>   |
| 実行                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異なる土に植えた植物の育ち方を調べる実験を設計する。</li> </ul>  |

|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を校正する。</li> <li>予算を立てる。</li> </ul>  |
| 分析-概念を部分分解し、それぞれの部分の全体への関連性を説明する         |  |
| 区別                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>数学の文章問題から重要な情報をリストに挙げ、非重要と思われるものを削除する。</li> <li>小説における主な登場人物と脇役を示す図を描く。</li> </ul>  |
| 整理                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>教室内にある図書をカテゴリ別に分類する。</li> <li>頻繁に使われる比喩的表現を図表に表し、それぞれの効果を説明する。</li> <li>地域に生息する動植物の相互作用を示す図を描く。</li> </ul>  |
| 原因説明                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>投書欄を読み、地域の問題に関する筆者の主張を究明する。</li> <li>小説や短編物語における登場人物の動機を究明する。</li> <li>政治家候補者のパンフレットを見て、問題に対するそれぞれの考え方の仮説を立てる。</li> </ul>   |
| 評価-基準・水準に基づいて判断を下す                       |  |
| 確認                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>作文グループに参加し、メンバーと、作文の論点の構成や論法に対するフィードバックを交換する。</li> <li>政治演説における矛盾点をリストに挙げる。</li> <li>プロジェクト・プランを見直し、必要な段階がすべて含まれているかどうかを確認する。</li> </ul>  |
| 批評                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトが、ルーブリック評価の基準をどれだけ満たしているか判断する。</li> <li>複雑な数学問題を解くにあたって最適な方法を選択する。</li> <li>占星術に対する賛否両方の論拠の妥当性を判断する。</li> </ul>   |
| 創造-部分どうしを組み合わせて新たなものを作り上げる、新しい構成の要素を認識する |  |
| 発案                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>基準となるもののリストをもとに、学校内における人種関係を改善するための方法をいくつか挙げる。</li> <li>なぜ植物には太陽光が必要なのかを説明する科学的仮説をいくつか考え出す。</li> <li>経済問題・環境問題の両方の視点から、化石燃料への依存を減らすことにつながる代替案を1つ提案する。</li> <li>基準に基づいた対立仮説を考え出す。</li> </ul> |
| 計画                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>昆虫についてのマルチメディア・プレゼンテーションの絵コンテを作る。</li> <li>マーク・トウェインの宗教に対する考え方についての論文の要点をまとめる。</li> <li>雌鳥の産卵数に対する異なる音楽の影響力を調べる科学研究の計画を立てる。</li> </ul>  |
| 生産                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>同盟や組合活動に励んでいる人の観点に立って記事を書く。</li> <li>地域の水鳥のための生息環境を作る。</li> <li>今読んでいる小説の1章を演劇に仕立てる。</li> </ul>   |



## 効果的なプロジェクトの設計： 思考スキルの構造

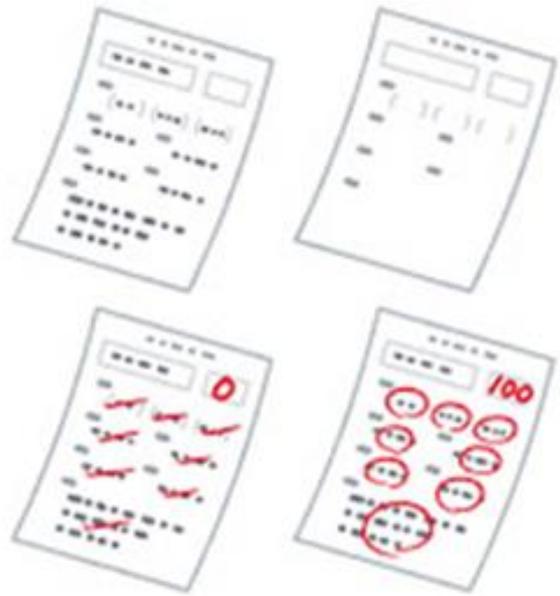
### ブルーム分類学： 知識面

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 事実的知識-基本情報                         |  |
| 専門用語の知識                            | 単語、数学記号、音符、アルファベット   |
| 詳細や要素の知識                           | 食品群ピラミッドの要素、国会議員の名前、第二次世界大戦での主な戦闘<br>      |
| 概念的知識-大きな構造の中の各部分が統合して機能するための相互関連性 |  |
| 分類やカテゴリーの知識                        | 動物の種、多種多様な論争、地質学上の時代   |
| 法則や一般概念の知識                         | 文献における矛盾、ニュートンの運動法則、民主主義の理念  |
| 仮説・模型・構造の知識                        | 進化論、経済論、DNA 模型<br>                        |
| 遂行的知識-何かをする際の方法                    |  |
| 教科に特有のスキルや計算法の知識                   | 二次方程式を解く手順、油絵用に絵の具を混ぜ合わせる、バレーボールのサーブ<br> |
| 教科に特有の技術や手法の知識                     | 文芸批評、歴史的資料の分析、数学の問題解答法   |
| 適切な手段をいつ使うかの判断基準の知識                | 実験の種類に応じた適切な方法、状況に応じて使われる統計的分析の手順、様々なジャンルの執筆のための基準   |
| メタ認知的知識-一般的思考と具体的な自分の思考            |  |
| 方略的知識                              | 事実を記憶する様々な方法、読解のための方略、ウェブサイト作成を計画する方法  |
| 状況的及び条件的知識を含む認知的課題に関する知識           | テキストや小説など異なる読書の必要性、電子データベースを使用する際に事前に考える、Eメールとビジネスレターを書く際の違い   |
| 自己認識                               | 難解な工程を理解するための図や表の必要性、静かな環境における理解度の向上、小論を書く前にアイデアを話し合う必要性   |

参照文献 Anderson, L. W. & Krathwohl, D. R. (2001年). A taxonomy for learning, teaching, and assessing. New York: Longman. Bloom, B.S., (Ed.). 1956年. Taxonomy of educational objectives: The classification of educational goals: Handbook I, cognitive domain. New York: Longman. Costa, A. L. (Ed.). (2000年). Developing minds: A resource book for teaching thinking. Alexandria, VA: ASCD. Marzano, R. J. (2000年). Designing a new taxonomy of educational objectives. Thousand Oaks, CA: Corwin Press.

### Ⅲ. 学びを促すテストとは

1. テストの目的とは、課題の目標を子どもが達成したかを見るものである。
2. 子どもができるだけ高いレベルでの学びを達成させるため、目標を設定して目標基準準拠テストを使うべきである。
3. 目標基準準拠テストでは、テストの結果を見て、手助けが必要かどうかを判断する。修正するなり補習を行うなりしないと、時間が経つにつれて学びに影響が出る。
4. 形式的テストを行い、子どもが内容、スキル、目標を達成するのに、修正が必要かどうか判断する。成果を上げられない教師は、成績にAを少ししか付けないうことに喜びを見出す。教師が成績をつけるのではなく、子どもが成績を獲得するのである。成果を上げる教師は、「テストをしては修正する」ということを繰り返す。
5. グランド・ウィギンスとジェイ・タイは、「逆向き時計」という授業計画を考案した。  
STEP 1：望む結果を決める。(授業の目標)  
STEP 2：認識できる証拠を決める。(テスト)  
STEP 3：学びの体験と指示を計画する。(活動や資料を考える)
6. 授業計画のつくり方  
指導計画を「学びの計画」と言い換える。①目標、②テスト、③活動を考える。



### Ⅳ. 学びを評価する

どうすれば、点数や成績を獲得できるのか、採点表を子どもたちに示す。採点表は、子どもたちへのロードマップであり、保護者が何を期待されているのか、どのように採点されているのかを把握できるので、保護者が子どもをサポートする場合にも役立つ。子どもたちは、何が行われるのかが明確な授業が大好きである。学びがどのように行われ、自分たちがどのように評価されるのか知っておきたいのである。教師と子どもたちが同じゴールに向かっていくとき、学びが生まれるのである。学習のプロセスの中で、最も大切なことは、「何を」「どのように」を子どもたちと共有することなのである。

### Ⅴ. 学びを促す

1. 常に良い方向に進んでいる学校には三つの特徴がある。
  - ① 生産的なチームとして働いている。
  - ② 明確で計測可能なゴールを設定している。
  - ③ 進行中のデータを収集し、分析している。
2. 成果を上げる学校には、学びのチームがある。
3. 子どもたちが諦めないことを学ぶ学校
  - ① 子どもの学習を何度も繰り返し、評価した。
  - ② 結果を使って教え、何度も教えた。
  - ③ 子どもたち全員が授業を理解する方法が見つかるまで諦めなかった。



4. 学びのチームにおいて、教師は子どもの学びを促進するために協力していく。
5. 成功している学校の校長や教師は、問題を特定し、速やかに対処するために定期的に評価（アセスメント）を行っている。これは、教師に対する個人攻撃ではない。不備は通常、インプットで見つかる。カリキュラムではなく、指示・目標に対して使う時間などである。アウトプット（子どもたち）ではない。
6. 成功している学校では、カリキュラムマップを使って年間計画や指導案等の共有を図っている。同学年はもちろん、学年を超えてもである。
7. 子どもの学びを促進するツール



- ① ノートのとり方「ノートをとるということは、人生における最高のスキルである『聞くこと』を具現化することである」
- ② 教科書の読み方「SQ3R」

**概観(Survey)**…結論を先に読む、太字になっている文章を先に読む、挿絵や写真を見て説明を読む、見出しを見て全体の構成を把握する。

**質問(Question)**…この章には何が書かれているか、自問する。

**読む(Read)**…質問を念頭に各セクションを読む。

**答える(Recite)**…声に出して、質問に答える。

**復習(Review)**…質問やカギになるアイデアについて復習し、理解しているかを確認する。

- ③ 教室での学習の延長としての宿題…最初の 2 週間は、授業で宿題の仕方を教え、その後初めて持ち帰らせる。あるいは、授業で宿題を始め、残りを家で仕上げさせる。

8. 学びのチームの共通のビジョンをもつ学校では、リーダーが動く。
9. 教師が孤立している時代は終わった。学びのチームで、教師や学校のリーダーたちが協働的な学びの環境を作り出す。



〈参考文献〉

ハリー・ウォン/ローズマリー・ウォン (著), 稲垣みどり (翻訳)

世界最高の学級経営 the FIRST DAYS OF SCHOOL —How to be an effective teacher 成果を上げる教師になるために 東洋館出版社 2017